

あみだじ 阿弥陀寺 だより

2015年1月1日 第23号

金剛山 阿弥陀寺

発行人 大谷 義文

〒861-2235 熊本県 上益城郡 益城町 福富 916

TEL (096) 289-0424 FAX (096) 297-9161

E-mail amidaji@s3.kcn-tv.ne.jp

ホームページ [金剛山阿弥陀寺](#) 検索

郵便振替:01710-8-68921 加入者名:阿弥陀寺事務所

迎春

本年もよろしく
お願い申し上げます



熊本城

朝、新米をご仮前に供える。天候不順と言われる。昨年、生産者のご苦労と心配は如何ばかりか知れない。労力のみならず経済的な負担も大きく、長雨、台風といった自然も大きく左右する。

「いただきます」と口にする言葉の重みを痛感し合掌。同時に自身のヒトトシを顧みて再合掌。

先日、お通夜が営まれた。故人は、私と同年代の女性。お別れの言葉は、

「母さん、『あたりまえなんてことはないのよ』と教えてくれてありがとう」と涙した。

「新しき」とは「故き」をたずねなければ知ることはない。「あたりまえ」もまた然り。気づかぬうちに、未来への希望につづをぬかしている自身には、いささかならず応えた言葉であつた。

今月、報恩講が勤まる。「恩」という字の上には「因」とある。これは、人が布団の上で寝ている姿。睡眠に因り活力を得られるという解釈から、生かされている原因と了解できる。なるほど、自身のいのちは無量の「因」で成り立つている。だが、「心」が離れては、申し訳がたたない。されど、親鸞聖人はそのすがたが私だと報らせてください。再々、合掌である。

故きを温ねて 新しきを知る
大谷 義文

佐土原本店

熊本市東区佐土原1-12-1(佐土原バス停前)

電話 096-360-8488

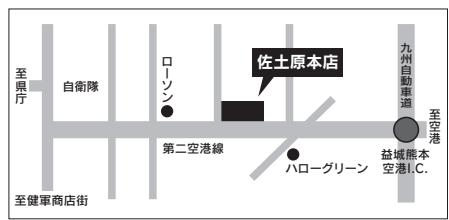
営業時間

昼/11:00~15:30(オーダーストップ15:00)

夜/17:00~21:30(オーダーストップ21:00)

定休日/毎週火曜日(祝日の場合翌日振替)

7・8月、12・1月は不定休



<http://www.kawasen.jp/>



「親鸞聖人物語」語り安田 登 師



先生の声と重なり胸に迫る。苦悩に満ちた逸話の数々は時代を超えて私たちに訴える力がある。息を呑んで耳を傾けた。

昨年、11月3日（文化の日）「浪曲の秋」と題し、安田先生の寺子屋が開催された。午後1時30分を過ぎると続々と来寺。開始2時には60名を超えて、本堂は満堂となつた。

読経を唱和し、初めに玉川奈々福師、沢村豊子による浪曲。演目は、「浪花節更紗」。春彼岸会以来に聴く鳴り、そして合ひの声に、皆さまから歓喜歓声があがつた。

後半は、「語り、親鸞聖人物語」。安田登師の語りに、奈々福師の三味線が、聖人の半生を振り返つた。

青蓮院、比叡の山々が阿弥陀寺の本堂に押し寄せてきたひと時となつた。

昨年、11月3日（文化の日）「浪曲の秋」と題し、安田先生の寺子屋が開催された。午後1時30分を過ぎると続々と来寺。開始2時には60名を超えて、本堂は満堂となつた。

読経を唱和し、初めに玉川奈々福師、沢村豊子による浪曲。演目は、「浪花節更紗」。春彼岸会以来に聴く鳴り、そして合ひの声に、皆さまから歓喜歓声があがつた。

後半は、「語り、親鸞聖人物語」。安田登師の語りに、奈々福師の三味線が、聖人の半生を振り返つた。



青蓮院、比叡の山々が阿弥陀寺の本堂に押し寄せてきたひと時となつた。

句うその花盛り百鳥さへも歌うなり

歌唱 「霞か雲か」 作詞 加部巖夫
原曲はドイツ民謡「春の訪れ」。阿弥陀寺の境内にも様々な鳥が遊びに来る。軽やかにくちばしき動かし、さえずつては飛んでいく。

「霞か雲か」は、明治16年の唱歌。百鳥とはたくさんの鳥。阿弥陀寺の境内にも様々な鳥が遊びに来る。軽やかにくちばしき動かし、さえずつては飛んでいく。

まに台詞を忘れるのもご愛嬌。

懇親会では、ご門徒の方が浪曲を披露された。なんと、三味線は奈々福さん。気持ちよく、朗々と鳴る姿に拍手喝采。た

いね」との声があり、「熊本は浪曲を好きな方が多い」と奈々福さん。「来年もぜひ聞きたい」との要望多数の声で寺子屋は幕を開じた。（柄原真人）

こう覚えていたよ」とか「今度は、あれが聞きたいね」との声があり、「熊本は浪曲を好きな方が多い」と奈々福さん。「来年もぜひ聞きたい」との要望多数の声で寺子屋は幕を開じた。（柄原真人）



寺子屋「浪曲の秋」

安田登先生に学ぶ

感想文

本一！」の掛け

また見せ場である見事な節回しに「日

お二人の息の合った掛け合いが始まった。

物語は、まじめな主人公、浪太郎が頼りになら大成していくという。笑いあり、涙あり。「よつ、はつ」と拍子を取りながら

お二人の息の合った掛け合いが始まった。

物語は、出生から修業時代までをお話された。今

物語は、まじめな主人公、浪太郎が頼りになら大成していくという。笑いあり、涙あり。「よつ、はつ」と拍子を取りながら

お二人の息の合った掛け合いが始まった。

物語は、出生から修業時代までをお話された。今

阿弥陀寺だより

御正忌報恩講

御正忌報恩講は、親鸞聖人のご法事です。

日時・1月11日(日)

正午 お斎(お食事) 1時 お勤め(読経)

●1時30分法話 ●2時30分落語・紙切り ●4時終了

法話・大谷義文(阿弥陀寺)

落語・紙切り・

柳家松太郎師(東京浅草・紙切り師)

(テレビ番組「駅からマップ」出演放映中)

※終了後、懇親会。参加費・1000円(1人)

春季差向け布教

納骨堂追弔法要
永代経法要

日時・2月23日(月)

午後1時30分 お勤め(読経)

2時 法話 3時30分終了

法話・花井性寛師(本山布教使)

新潟 仏照寺住職



○寺子屋

今年も安田登先生に学ぶ「寺子屋」、開催します。
詳細は、決まり次第お知らせいたします。

※ 京都、本山佛光寺から差向けられました布教使による御法話です。
平日ではございますが、お参りお待ち申しあげます。
納骨堂加入者に限らずどなた様も参加いただけます。

本の紹介



『日本人の身体』

著 安田登



『肝をゆるめる
身体作法』

著 安田登

『肝をゆるめる
身体作法』

著 安田登

出版社・ちくま新書

定価(820円+税)

出版社・実業之日本社

定価(1500円+税)

私たちには、臆病や不

もの前側を指し、「肩」

と言えば、首肩まわり

を指す。おおざつぱで

曖昧であり、細かいこ

とは気にしなかつたは

ずの日本人の身体観。

人間同士の境界も、

環境との境界も曖昧で

あつたがゆえに、他人

や自然と共鳴できてい

た。「カラダ」と「ココロ」に分裂し、内向きになつてゐる現代の身體觀を、打開する端緒とした1冊。

実は、人からの罵詈雑言や皮肉をはねのけて大成した歴史上の偉人の多くは「自分には度胸がない」とか「臆病である」ということを表明している。臆病なのにはすべきことはする、それが「肝が据わっている」人。

3月21日(土)春分の日

法話 安田 登師

○春 彼岸会法要

3月21日(土)春分の日

法話 安田 登師

ハタオ葬儀社 水前寺斎場

熊本市中央区国府1丁目12-3

TEL.096-364-3220(代)

豊住葬祭

豊住斎場

熊本市中央区河原町23

TEL.096-324-4848(代)

葬儀・祭壇 熊本県儀式共済グループ